

第 2 章 共通工

1)	法面工	259
1)-1	法面整形工	259
1)-2	芝付工	262
1)-3	コンクリート法枠工	264
1)-4	法面施肥工	273
1)-5	現場吹付法枠工	274
1)-6	吹付法面とりこわし工	276
1)-7	プレキャストコンクリート板設置工	279
1)-8	人工張芝工	283
2)	基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工	284
3)	コンクリートブロック積(張)工	292
3)-1	コンクリートブロック積(張)工	292
3)-2	裏込栗石投入工(コンクリートブロック張)	311
4)	石積(張)工	312
4)-1	石積(張)工	312
4)-2	平石張工	315
5)	場所打擁壁工	318
5)-1	場所打擁壁工(1)	318
5)-2	場所打擁壁工(2)	334
6)	プレキャスト擁壁工	336
7)	補強土壁工(テールアルメ工, 多数アンカー工)	339
8)	ジオテキスタイル工	343
9)	連続地中壁工(柱列式)	350
10)	排水構造物工	357
10)-1	排水構造物工	357
10)-2	排水構造物工(管(函)渠型側溝・溶接金網及び埋設鋼板型枠)	381
10)-3	排水構造物工(現場打ち水路(本体))	384
10)-4	排水構造物工(現場打ち集水柵・街渠柵(本体))	387
11)	軟弱地盤処理工	390
11)-1	サンドマット工	390
11)-2	粉体噴射攪拌工(DJM工法)	392
11)-3	スラリー攪拌工	398
11)-4	高圧噴射攪拌工	404
11)-5	ペーパードレーン工	418
11)-6	中層混合処理工	421
12)	薬液注入工	424
13)	アンカー工(ロータリーパーカッション式)	438
14)	構造物とりこわし工	445
15)	コンクリート削孔工	449
16)	ガス切断工	452
16)-1	ガス切断工	452
16)-2	鋼材現場ガス切断工	453

17)	吸出し防止材設置工	455
18)	目地・止水板設置工	456
19)	旧橋撤去工	460
20)	かご工	472
21)	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	477
22)	現場取卸費	487
23)	骨材再生工（自走式）	491
24)	函渠工	494
24)-1	函渠工（1）	494
24)-2	函渠工（2）	499
25)	殻運搬（施工パッケージ）	501

1) 法面工

1)-1 法面整形工

1. 適用範囲

本資料は、盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。

1-1 適用できる範囲

(1) 土質がレキ質土，砂及び砂質土，粘性土，軟岩 I・II，中硬岩，硬岩の法面整形

2. 施工概要

2-1 盛土法面整形工

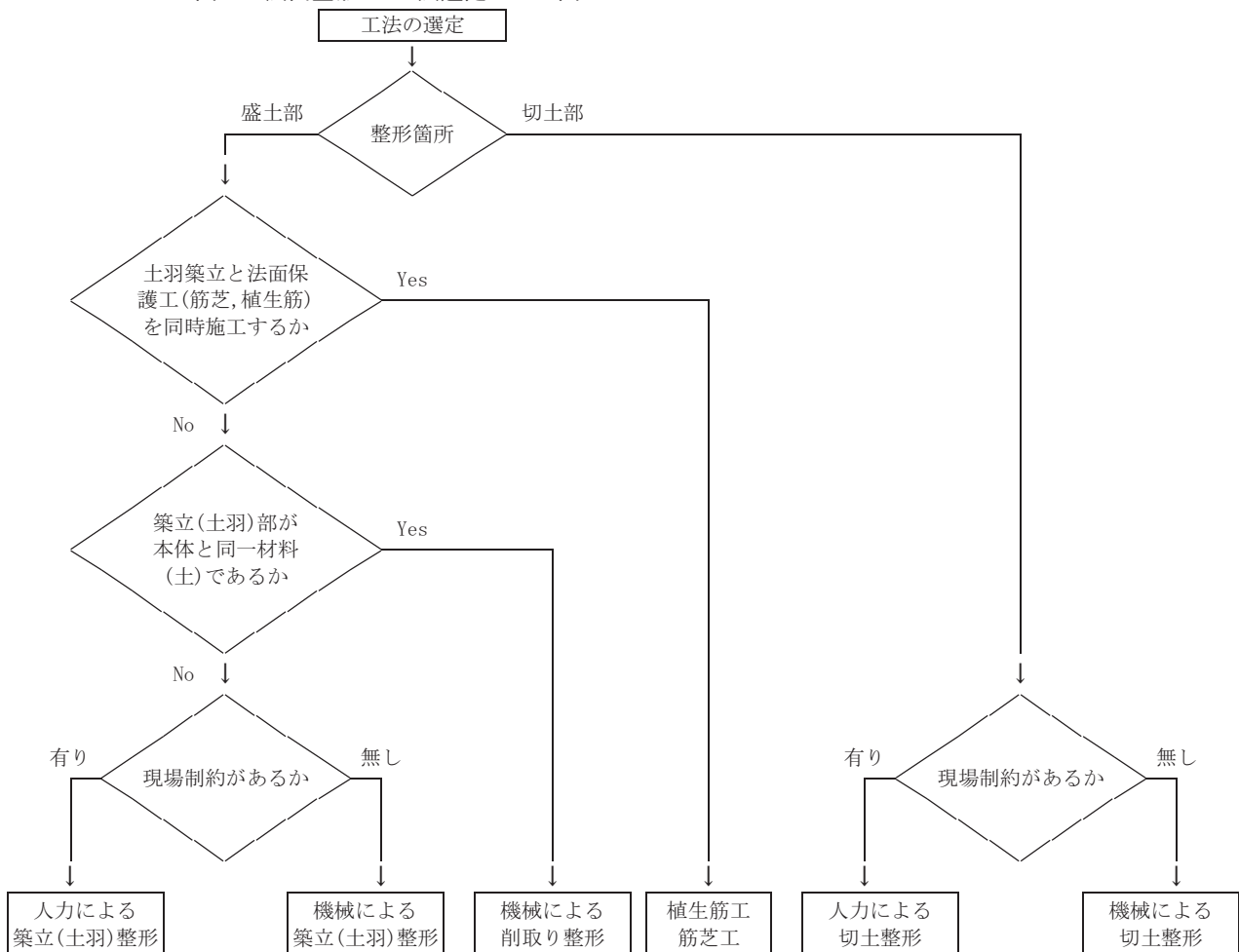
法面表層部を締め固め整形することを盛土法面整形工という。

2-2 切土法面整形工

法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。

3. 施工フロー

図 3-1 法面整形工 工法選定フロー図



(注) 1. 下記の条件のいずれかに該当する場合は現場制約有りとする。

- ・機械施工が困難な場合
- ・一度法面整形を完成した後，局部的に浸食・崩壊を生じた場合
- ・法面保護工を施工する前に必要に応じて行う整形作業（二次整形）をする場合

2. 植生筋工，筋芝工については「第 VI 編 第 1 章 市場単価 6) 法面工」により別途計上すること。

図 3-2 盛土部施工フロー図

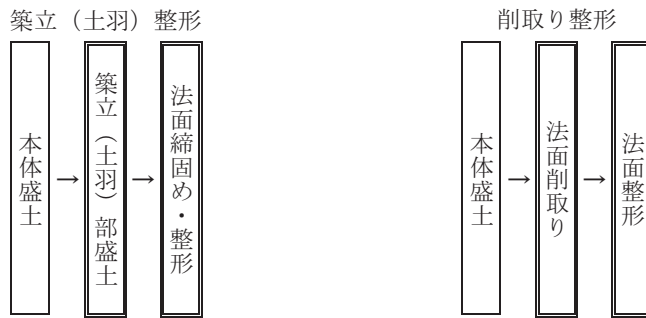
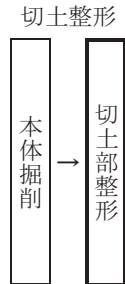


図 3-3 切土部施工フロー図



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

4. 施工パッケージ

4-1 法面整形【SPK14040029】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 4.1 法面整形 積算条件区分一覧

(積算単位：m2)

整形箇所	法面締め固めの有無	現場制約の有無	土質
盛土部	有り	有り	砂及び砂質土，粘性土
		無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
	無し	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
切土部	—	有り	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
			軟岩 I，軟岩 II，中硬岩，硬岩
		無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
			軟岩 I

- (注) 1. 上表は、切土法面の表層部を削取りながらの法面整形又は盛土法面の表層部を削取りながらの法面整形及び築立てながらの法面（土羽）整形，土羽土の現場内小運搬（20m 程度）の他，空気圧縮機，ピックハンマ賃料，チゼル損耗費等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 残土の積み込み，工区外の運搬，並びに法面保護工は含まない。
3. 土羽土の搬入等は含まない。
4. 下記の条件のいずれかに該当する場合は現場制約有りとする。
- ・機械施工が困難な場合
 - ・一度法面整形を完成した後，局部的に浸食・崩壊を生じた場合
 - ・法面保護工を施工する前に必要に応じて行う整形作業（二次整形）をする場合
5. 現場制約がある場合は，切土・盛土ともに人力施工になる。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

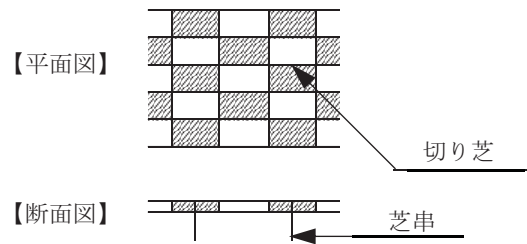
表 4.2 法面整形 代表機労材規格一覧

現場制約の有無	整形箇所	項目	代表機労材規格	備考			
無し	盛土部 切土部	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)			
			K2	-			
			K3	-			
		労務	R1	普通作業員			
			R2	運転手(特殊)			
			R3	土木一般世話役			
			R4	-			
		材料	Z1	軽油 1.2 号パトロール給油			
			Z2	-			
			Z3	-			
			Z4	-			
		市場単価	S	-			
		有り	盛土部	機械	K1	タンバ及びランマ質量 60~80kg	
					K2	-	
K3	-						
労務	R1			普通作業員			
	R2			土木一般世話役			
	R3			特殊作業員			
	R4			-			
材料	Z1			ガソリンレギュラースタンド			
	Z2			-			
	Z3			-			
	Z4			-			
市場単価	S			-			
切土部	機械			K1	-		
				K2	-		
			K3	-			
	労務		R1	普通作業員			
			R2	土木一般世話役			
			R3	特殊作業員	軟岩 I, 軟岩 II, 中硬岩, 硬岩の場合		
			R4	-			
材料	Z1		-				
	Z2		-				
	Z3	-					
	Z4	-					
市場単価	S	-					

1)-2 芝付工

1. 適用範囲

本資料は、平面部に施工する市松芝工（格子状に張る場合）に適用する。



1-1 適用できる範囲

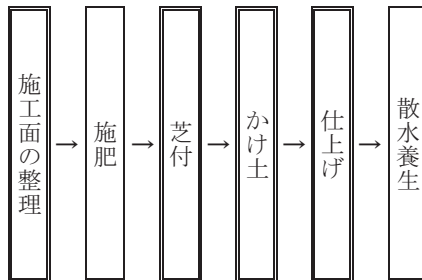
- (1) 平面部への高麗芝，野芝の芝付

1-2 適用できない範囲

- (1) 耳芝のみの施工の場合
- (2) 法面部への高麗芝，野芝の芝付
- (3) 公園工事の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 散水養生は必要に応じて別途計上する。
 3. 芝串の有無に関係なく適用できる。
 4. 施肥は必要に応じて別途計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 市松芝【SPK14040030】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 市松芝 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

芝の規格	
高麗芝	
野芝	

- (注) 1. 上表は、芝の張付け、耳芝、目串、現場内小運搬（20m 程度）等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 散水養生は必要に応じて別途計上する。
 3. 施肥は必要に応じて別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.2 市松芝 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	-	
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	高麗芝	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

1)-3 コンクリート法枠工

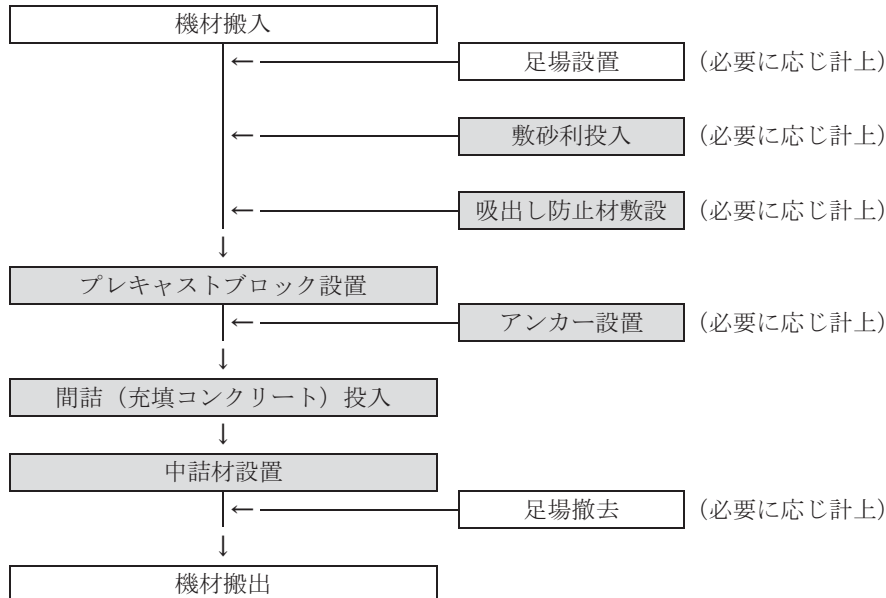
1. プレキャスト法枠工

1-1 適用範囲

本資料は、プレキャストブロック（質量 1,400kg/個未満）による法枠工に適用する。

1-2 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

1-3 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 1.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	概要
プレキャスト ブロック設置 中詰材設置	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	台	1	
中詰材設置	バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	〃	1	

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

1-4 日当り編成人員

プレキャストブロック設置の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 1.2 日当り編成人員

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	1
ブロック工	〃	1
普通作業員	〃	3

1-5 日当り施工量

プレキャストブロック設置の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.3 日当り施工量

日当り施工量	単位	数量
プレキャストブロック設置	m ²	36

- (注) 1. 上表は、法枠設置（中詰ブロックを除く）、間詰（充填コンクリート）の施工量であり、施工量は中詰面積を含めた数量である。
 2. 上表には、25m 程度の現場内小運搬を含む。

1-6 諸雑費

表 1.4 諸雑費率 (％)

工種名	工種の組合せ			
プレキャストブロック設置工	○	○	○	○
アンカー設置工	×	○	×	○
吸出し防止材敷設工	×	×	○	○
諸雑費率	3	18	20	35

- (注) 1. ○：当該工種あり。×：当該工種無し。
 2. プレキャストブロック設置工：間詰（充填コンクリート）材料費
 アンカー設置工：設置労務費，アンカー材料費
 吸出し防止材敷設工：設置労務費，吸出し防止材材料費
 3. プレキャストブロック設置労務費及び機械賃料の合計額に、上表から選択した率を乗じた金額を上限として計上する。

1-7 敷砂利

敷砂利投入が必要な場合は、次表により計上することが出来る。

表 1.5 敷砂利施工歩掛 (10m³ 当り)

名称	規格	単位	数量
普通作業員		人	1.0
バックホウ運転	排出ガス対策型（第 1 次基準値） クローラ型山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	h	2.0

- (注) 1. バックホウによる施工が困難な場合は、別途計上する。
 2. 敷砂利の使用量は、次式による。
 使用量＝設計量×(1+K) (m³)
 設計量：m³
 K：ロス率
 ロス率 (K) の値は、次表を標準とする。

表 1.6 ロス率 (K)

ロス率	+0.20
-----	-------

1-8 中詰工

中詰工施工の歩掛は、次表を標準とする。

表 1.7 中詰工施工歩掛

名称	規格	単位	中詰区分				
			中詰 ブロック (100m ²)	客土 (100m ³)	植生 土のう (1,000 袋)	割石又 は栗石 (10m ³)	砕石 (10m ³)
土木一般世話役		人	1.2	5.3	1.6	1.0	0.5
ブロック工		〃	4.4	—	—	—	—
法面工		〃	—	6.0	2.7	—	—
普通作業員		〃	8.0	36.4	12.0	6.6	3.1
ラフテレーンク レーン運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	—	6.2	0.9	0.5	—
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	—	—	—	—	5.4
諸雑費率		%	10	—	—	—	—

- (注) 1. 中詰ブロックの積算対象は、法枠面積を含めた 100m² 当りとする。
2. 植生土のうを製作する場合は、普通作業員 1.8 (人/100 袋) を加算し、使用土量は 2 (m³/100 袋) を標準とする。
また、植生土のう使用量は 6 (袋/m²) を標準とする。
3. 諸雑費は、目地材の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. 中詰コンクリート工は、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」(小型構造物) に準じ別途計上する。
5. 中詰張芝工が必要な場合は、「第 VI 編 第 1 章 市場単価 6)-1 法面工」により別途計上する。
6. 中詰ブロックを 1~2 段施工する場合以外は、ラフテレーンクレーンの運転日数 0.7 (日/100m²) を本表に加算する。
7. 中詰砕石工において、バックホウによる施工が困難な場合は、別途考慮する。
8. 客土、栗石及び砕石の使用量は、次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^3)$$
設計量 : m³
K : ロス率
ロス率 (K) の値は、次表を標準とする。

表 1.8 ロス率 (K)

材料名	客土	割石又は栗石、砕石
ロス率	+0.16	+0.20

1-9 足場工

足場工が必要な場合は、「第 II 編 第 5 章 9)-1 足場工」により別途計上する。

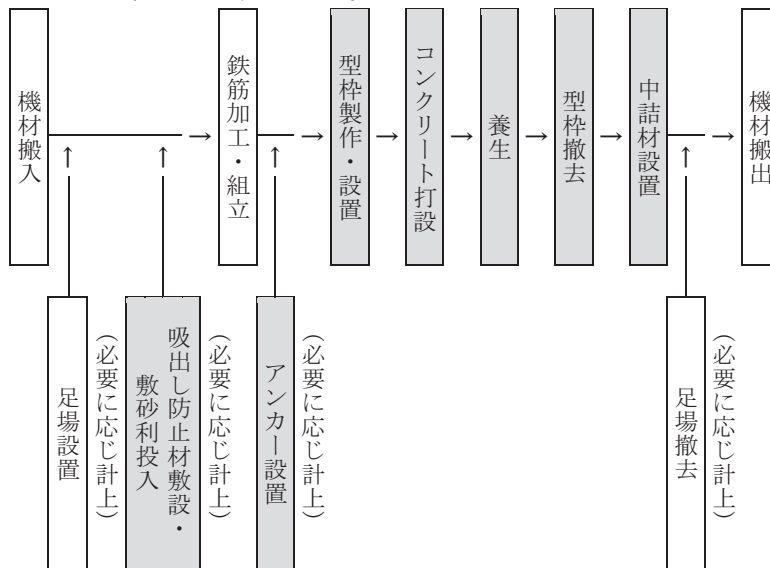
2. 現場打法枠工

2-1 適用範囲

本資料は、施工面積 3,000m² 以下、平均法長 30m 以下、法勾配 1 : 0.3~1 : 2.0 の法面における現場打法枠工に適用する。

2-2 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

2-3 施工方法の選定

施工方法の選定は、次表を標準とする。

表 2.1 施工方法の選定

施工方法	施工条件
入力打設	施工法面の天端にコンクリート運搬車が接近でき、直打・シュート打が可能で、平均法長 11m 以下、法勾配 1:1.5~1:2.0 の法面
コンクリートポンプ車打設	上記以外の法面

(注) 現場条件等により上表により難しい場合は、別途積算する。

2-4 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 2.2 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
コンクリート投入打設	コンクリートポンプ車	トラック架装・ブーム式 90~110m ³ /h	台	1	ブーム打設及び配管打設に適用
型枠工	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	1	

(注) 1. 現場条件により、これにより難しい場合は別途考慮することが出来る。

2. ラフテレーンクレーンは、法尻からの最大法直高 4m 以上の現場において、全数量に適用する。

3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2-5 コンクリート投入打設歩掛

2-5-1 人力打設

人力によるコンクリート投入打設歩掛は、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」(小型構造物)による。

ただし、コンクリート混合物の使用量は、次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^3)$$

設計量 : m³

K : ロス率

ロス率 (K) の値は、次表を標準とする。

表 2.3 ロス率 (K)

ロス率	+0.11
-----	-------

2-5-2 コンクリートポンプ車投入打設

コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛は次表を標準とする。

表 2.4 コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛 (100m³ 当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	3.8
特殊作業員	〃	8.8
普通作業員	〃	13.9
コンクリートポンプ車運転	h	22.7
諸雑費率	%	2

(注) 1. 上表は、法枠本体の投入打設歩掛であり、養生の労務を含む。

2. コンクリートポンプ車の配管打設の場合の圧送管組立・撤去歩掛は、「第 II 編 第 4 章 1) コンクリート工」による。

3. 諸雑費は、パイプレータの機械損料、運転経費及び養生材料等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4. コンクリート混合物の使用量は、次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^3)$$

設計量 : m³

K : ロス率

ロス率 (K) の値は、次表とする。

表 2.5 ロス率 (K)

ロス率	+0.15
-----	-------

2-6 アンカー工

アンカーが必要な場合は、次表により計上することが出来る。

表 2.6 アンカー施工歩掛 (10 本当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	0.3

(注) アンカーは打込式とし、アンカーピン長さは 1m 以内とする。

2-7 敷砂利及び吸出し防止材

2-7-1 敷砂利

敷砂利が必要な場合の歩掛は、「プレキャスト法枠工」による。

2-7-2 吸出し防止材

吸出し防止材が必要な場合は、次表により計上することが出来る。

表 2.7 吸出し防止材施工歩掛 (100m² 当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	0.5

(注) 吸出し防止材の使用量は、次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^2)$$

設計量 : m²

K : ロス率

ロス率 (K) の値は、次表とする。

表 2.8 ロス率 (K)

ロス率	+0.08
-----	-------

2-8 中詰工

中詰工歩掛は、「プレキャスト法枠工」の中詰工による。

2-9 型枠工

型枠の製作・設置・撤去歩掛は、「第 II 編 第 4 章 2)-1 型枠工」小型構造物による。

ただし、ラフテレーンクレーンが必要となる場合は、0.8 (日/100m²) 加算する。

なお、ラフテレーンクレーンの規格は、表 2.2 による。

2-10 鉄筋工

鉄筋加工組立は、「第 VI 編 第 1 章 市場単価 1)-1 鉄筋工」による。

2-11 足場工

足場工は「第 II 編 第 5 章 9)-1 足場工」による。

3. 単価表

(1) プレキャストブロック設置 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×100/D	表 1.2
ブロック工		〃	1×100/D	〃
普通作業員		〃	3×100/D	〃
ブロック		個		
敷砂利		m ³		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	1×100/D	表 1.3
諸雑費		式	1	表 1.4
計【S0280】				

(注) D : 日当り施工量

(2) 敷砂利 10m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	1.0	表 1.5
砂利		m3		[10×(1+ロス率)] (表 1.6)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m3(平積 0.6m3)	h	2.0	表 1.5
諸雑費		式	1	
計【S0283】				

(3) 中詰ブロック設置 100m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1.2	表 1.7
ブロック工		〃	4.4	〃
普通作業員		〃	8.0	〃
ブロック		個		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.7	表 1.7(注6)必要に応じ計上
諸雑費		式	1	表 1.7
計【S0284】				

(4) 中詰客土設置 100m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	5.3	表 1.7
法面工		〃	6.0	〃
普通作業員		〃	36.4	〃
客土		m3		[100×(1+ロス率)] (表 1.8)
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	6.2	表 1.7
諸雑費		式	1	
計【S0286】				

(5) 中詰植生土のう設置 1,000 袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1.6	表 1.7
法面工		〃	2.7	〃
普通作業員		〃	12.0	〃
植生土のう		袋	1,000	単価表(8)必要により計上
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.9	表 1.7
諸雑費		式	1	
計【S0288】				

(6) 中詰割石又は栗石設置 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1.0	表 1.7
普通作業員		〃	6.6	〃
割石又は栗石		m ³		[10×(1+ロス率)] (表 1.8)
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.5	表 1.7
諸雑費		式	1	
計【S0289】				

(7) 中詰砕石設置 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.5	表 1.7
普通作業員		〃	3.1	〃
砕石		m ³		[10×(1+ロス率)] (表 1.8)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	h	5.4	表 1.7
諸雑費		式	1	
計【S0289】				

(8) 植生土のう製作 100 袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	1.8	表 1.7, (注) 2
植生土のう袋	400×600	袋	100	
植生土		m ³	2	表 1.7, (注) 2 必要に応じて計上
諸雑費		式	1	
計【S0283】				

(9) コンクリートポンプ車打設 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	3.8	表 2.4
特殊作業員		〃	8.8	〃
普通作業員		〃	13.9	〃
コンクリート		m ³		[10×(1+ロス率)] (表 2.5)
コンクリートポンプ車運転	トラック架装・ブーム式 90~ 110m ³ /h	h	22.7	表 2.4
圧送管組立・撤去		m ³	100	(10)単価表 必要に応じて計上
諸雑費		式	1	表 2.4
計【S0290】				

(10) 圧送管組立、撤去費 10m3 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	0.46×L/7.2	
諸雑費		式	1	
計				

(注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超えた部分の圧送管延長とする。

(11) アンカー設置工 10 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	0.3	表 2.6
アンカー		本	10	
諸雑費		式	1	
計【S0282】				

(12) 吸出し防止材敷設工 100m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	0.5	表 2.7
吸出し防止材		m2		[10×(1+ロス率)] (表 2.8)
諸雑費		式	1	
計【S0281】				

(13) 型枠工 100m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	3.5	II-4-2 表 3.1
型枠工		〃	13.5	〃
普通作業員		〃	11.1	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.8	必要に応じて計上 2-9
諸雑費		式	1	II-4-2 表 3.1
計				

(14) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリートポンプ車	トラック架装・ブーム式 90~110m3/h	機-3	機械損料 1→コンクリートポンプ車
			機械損料 2→コンクリート圧送管 (径 125mm) 単位 →m・h 数量 →L×1h
バックホウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	機-1	

(注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超えた部分の圧送管延長とする。

1)-4 法面施肥工

1. 適用範囲

本資料は、道路法面における法面施肥作業で 1m² 当りの吹付け肥料が 90～120g のもので、法勾配 1 割以上、平均法長 50m 以下に適用する。

2. 機種の設定

機種、規格は、次表を標準とする。

表 2.1 機種の設定

機械名	規格	摘要
種子吹付機	(車載式・種子専用) 2.5m ³	
トラック	4.0～4.5t 積	吹付機搭載用

3. 施工歩掛

施工歩掛は、次表とする。

表 3.1 施肥歩掛

(1000m² 当り)

名称	規格	単位	数量	
			平均法長 20m 以下	平均法長 20m 超える
土木一般世話役		人	0.14	0.16
普通作業員		〃	0.28	0.32
種子吹付機運転	(車載式・種子専用) 2.5m ³	h	1.2	1.5
トラック運転	4.0～4.5t 積	〃	1.2	1.5
諸雑费率		%	2	

(注) 1. 諸雑費は、給水用ポンプの損料等の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 1 日当り作業量は、平均法長 20m 以下の場合、5,600m²/日、平均法長 20m を超える場合、4,500m²/日とする。

4. 単価表

(1) 法面施肥工 1000m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 3.1
普通作業員		〃		〃
肥料		kg		
種子吹付機運転	(車載式・種子専用) 2.5m ³	h		表 3.1
トラック運転	4.0～4.5t 積	〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
種子吹付機	(車載式・種子専用) 2.5m ³	機-13	
トラック	4.0～4.5t 積	機-6	

1)-5 現場吹付法枠工

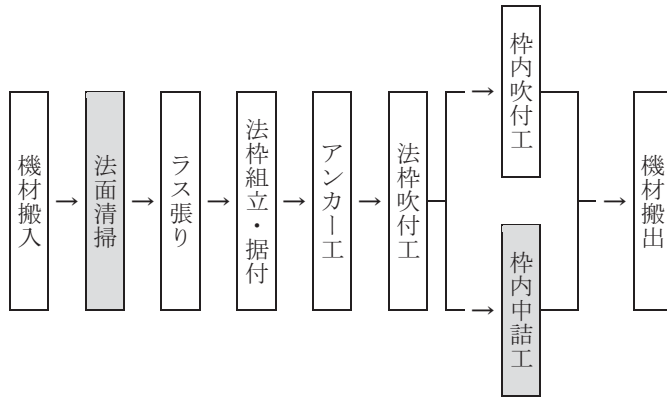
1. 適用範囲

本資料は、命綱を用いて自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を地山等に設置し、そのプレハブ部材内にモルタル又はコンクリート類を吹付けて法枠構造を作る工法における法面清掃工、法枠中詰工のみ適用する。

なお、法枠組立・据付工、アンカー工、法枠吹付工、ラス張工、枠内吹付工を行う場合の現場吹付法枠工については、適用しない。

2. 施工概要

標準施工フローは、下記のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

図 2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機械名	規格	単位	台数	摘要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 50t 吊	台	1	植生土のう(注 1, 2)

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2. ラフテレーンクレーンの規格は、上表を標準とするが、現場条件、調達条件等により、これにより難しい場合は別途考慮する。

4. 施工歩掛

4-1 法面清掃工

法面清掃工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 法面清掃工歩掛 (日)

名称		単位	数量
日当り施工量	法面清掃面積 (A)	m ²	219
編成人員	土木一般世話役	人	1
	法面工	〃	3
	普通作業員	〃	1
諸雑費率		%	15

(注) 1. 諸雑費は、空気圧縮機、命綱等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 法面残土処理(積込、運搬)が生じた場合は、別途考慮する。

3. 法面清掃は全施工面積を対象とし、法面整形後の場合でも法面清掃は計上する。

4-2 枠内中詰工

(1) 枠内中詰工（植生土のう）歩掛

枠内中詰工（植生土のう）の歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 枠内中詰工（植生土のう）歩掛（日）

名称		単位	数量
日当り施工量	設置数 (N)	袋	641
編成人員	土木一般世話役	人	1
	法面工	〃	6
	普通作業員	〃	2
使用機械	ラフテレーンクレーン運転	台	1
諸雑費率		%	0.1

- (注) 1. 諸雑費は、命綱等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 2. 植生土のう製作及び植生土のう以外については、「第 2 章 1)-3 コンクリート法枠工」によるものとする。

4-3 法枠組立・据付工、アンカー工及び法枠吹付工

「第 VI 編 第 1 章 市場単価 6)-2 吹付枠工」による。

4-4 ラス張工

ラス張が必要な場合は、法面清掃の有無にかかわらず「第 VI 編 第 1 章 市場単価 6)-2 吹付枠工」により計上する。

5. 単価表

(1) 法面清掃 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×100/A	表 4.1
法面工		〃	3×100/A	〃
普通作業員		〃	1×100/A	〃
諸雑費		式	1	〃
計【S0242】				

(注) A：日当り施工量 (m²/日)

(2) 枠内中詰（植生土のう）1,000 袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×1,000/N	表 4.2
法面工		〃	6×1,000/N	〃
普通作業員		〃	2×1,000/N	〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 50t 吊	日	1×1,000/N	〃
諸雑費		式	1	〃
計【S0275】				

(注) N：日当り施工量 (袋/日)

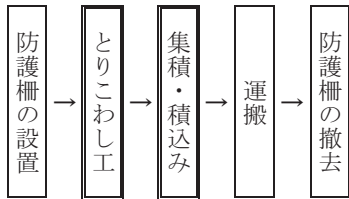
1)-6 吹付法面とりこわし工

1. 適用範囲

本資料は、モルタルの吹付法面とりこわし工のうち、「仮設ロープを用いたピックハンマによる人力とりこわし作業」と「バックホウによるとりこわし作業（高さ 5m まで）」に適用する。
 ただし、モルタル厚は 5～15cm とする。

2. 施工概要

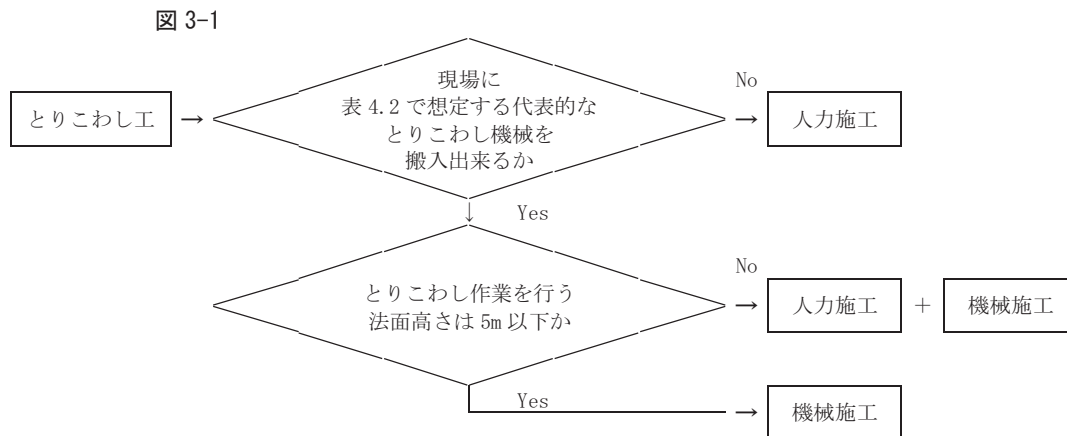
(1) 施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
- 2. 運搬は「第 II 編 第 2 章 25) 殻運搬」による。
- 3. 防護柵の設置・撤去は「第 II 編 第 5 章 16)-1 切土（発破）防護柵工」による。

3. 工法の選定

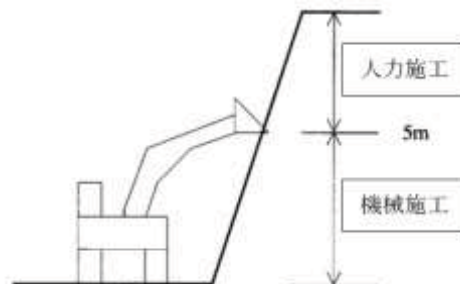
(1) とりこわし工法選定は、図 3-1 による。



(2) 施工形態

「人力施工+機会施工」の場合の施工形態は、図 3-2 による。

図 3-2



4. 施工パッケージ

4-1 吹付法面取壊し【SPK14040031】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 4.1 吹付法面取壊し 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

集積積込の有無	工法区分
有り	人力施工
	機械施工
無し	人力施工
	機械施工

- (注) 1. 上表は、吹付法面のとりこわし、集積積込、ラス等の撤去の他、空気圧縮機賃料、ピックハンマ賃料、チゼルの損耗費、仮設ロープ費、エアースの費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. モルタル殻を径 30cm 以上 50cm 以下程度に破碎する小割り作業を含む。
3. 殻運搬、殻処分は含まない。
4. 施工数量は、構造物をとりこわす対象面積 (m²) とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 4.2 吹付法面取壊し 代表機労材規格一覧

集積積込の有無	工法区分	項目	代表機労材規格	備考	
有り	人力施工	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積 0.5m3(平積 0.4m3)	
			K2	-	
			K3	-	
		労務	R1	法面工	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	運転手(特殊)	
		材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
	機械施工	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積 0.5m3(平積 0.4m3)	
			K2	-	
			K3	-	
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	-	
		材料	Z1	軽油 1.2 号パトロール給油	
Z2			-		
Z3			-		
Z4			-		
市場単価		S	-		
無し	人力施工	機械	K1	-	
			K2	-	
			K3	-	
		労務	R1	法面工	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	-	
		材料	Z1	-	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
	機械施工	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積 0.5m3(平積 0.4m3)	
			K2	-	
			K3	-	
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	土木一般世話役	
			R3	-	
			R4	-	
		材料	Z1	軽油 1.2 号パトロール給油	
Z2			-		
Z3			-		
Z4			-		
市場単価		S	-		

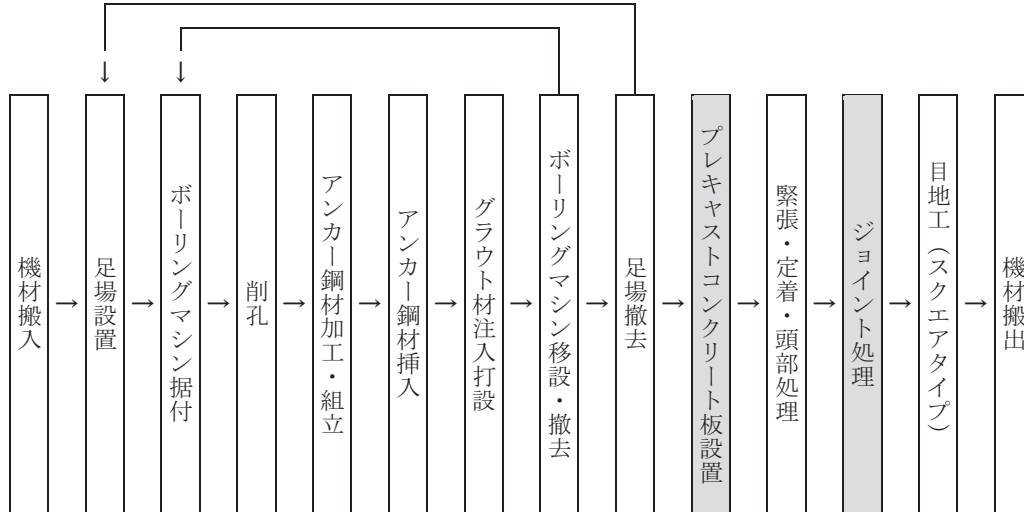
1)-7 プレキャストコンクリート板設置工

1. 適用範囲

本資料は、グラウンドアンカーとプレキャストコンクリート板を緊結することにより、斜面等の安定化を図る工法に適用する。なお、プレキャストコンクリート板は、クロスタイプ、セミスクエアタイプ、スクエアタイプとする。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。
- 2. ロータリーパーカッション式ボーリングマシンをクローラタイプとするときは、足場設置・撤去及びボーリングマシン据付・移設・撤去は対象外となる。

3. 機種の選定

機械・規格の選定は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	台	1	

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは、最大部材質量、作業半径、吊上 (下) げ高及びプレキャストコンクリート板据付、施工機械移設、足場設置・撤去の工程を配慮し、同一機種で選定することを標準とするが、現場条件等により上表により難しい場合は、別途選定する。
- 2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4. 削孔工

「第 II 編 第 2 章 13) アンカー工 (ロータリーパーカッション式)」の削孔による。

5. アンカー鋼材加工・組立・挿入工

「第 II 編 第 2 章 13) アンカー工 (ロータリーパーカッション式)」のアンカー鋼材加工・組立・挿入 (二重防食) による。

6. グラウト注入打設工

「第 II 編 第 2 章 13) アンカー工 (ロータリーパーカッション式)」のグラウト注入打設による。

7. プレキャストコンクリート板据付工

7-1 プレキャストコンクリート板据付工

プレキャストコンクリート板据付工は、プレキャストコンクリート板をラフテレーンクレーンにて、法面、斜面に据付ける作業に適用する。

7-1-1 編成人員

プレキャストコンクリート板据付工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 7.1 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	ブロック工	普通作業員
1	1	2

7-1-2 日当り据付枚数

プレキャストコンクリート板据付工の 1 日当り据付枚数 (N) は、次表を標準とする。

表 7.2 日当り据付枚数 (枚/日)

クロスタイプ	セミスクエアタイプ スクエアタイプ
7	5

7-1-3 日当り据付枚数の補正

1 列当り平均据付枚数により、表 7.2 の日当り据付枚数を次により補正する。

補正日当り据付枚数 = 表 7.2 の日当り据付枚数 × (1 + K)

K : ロス率

表 7.3 ロス率 (K)

1 列当り平均据付枚数	20 枚未満	20 枚以上 30 枚未満	30 枚以上
ロス率	-0.1	0	+0.1

(注) 1. 1 列当り平均据付枚数は、次式により求める。

1 列当り平均据付枚数 = 総据付枚数 ÷ 施工列数

2. 1 列当り平均据付枚数は、1 工事単位とする。

7-1-4 裏込工

斜面の不陸による斜面とプレキャストコンクリート板との間に発生する空隙に対して裏込工を施工する場合は、別途計上する。

7-2 ジョイント処理工

7-2-1 ジョイント処理歩掛

クロスタイプ及びセミスクエアタイプにおけるジョイント処理歩掛は、次表を標準とする。

表 7.4 ジョイント処理工歩掛 (10 箇所当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.7
普通作業員	〃	1.5

(注) ジョイント部分のモルタル処理を含む。

7-2-2 目地工

スクエアタイプにおけるジョイント処理及び目地工は、別途計上する。

8. 緊張・定着・頭部処理工

「第 II 編 第 2 章 13) アンカー工（ロータリーパーカッション式）」の緊張・定着・頭部処理による。

9. ボーリングマシン移設工

「第 II 編 第 2 章 13) アンカー工（ロータリーパーカッション式）」のボーリングマシン移設による。ただし、クレーンの規格は、表 3.1 機種を選定による。

10. 足場工

足場が必要な場合は、別途計上する。ただし、クレーンの規格は、表 3.1 機種を選定による。

11. その他

プレキャストコンクリート板設置工は、特許工法であるので原則として特許料を計上するが、積算にあたっては留意する。

- (注) 1. 特許料は、直接工事費の合計額の 3% を計上する。
2. 直接工事費の内訳は、下記のとおりとする。
1. 削孔工
 2. アンカー鋼材加工・組立・挿入工
 3. グラウト注入打設工
 4. 緊張定着工
 5. 移設工
 6. 泥排水処理工（必要な場合別途計上）
 7. アンカー材料費
 8. 裏込工（必要な場合別途計上）
 9. PC フレーム据付工
 10. ジョイント処理工
 11. 目地工（必要な場合別途計上）
 12. PC フレーム（材料）

12. 単価表

(1) プレキャストコンクリート板据付工内訳書

名称	規格	単位	数量	摘要
削孔		m		(注)
アンカー鋼材加工・組立・挿入		本		〃
グラウト注入打設		m ³		〃
ボーリングマシン移設		回		〃
緊張・定着・頭部処理		本		〃
足場工		空 m ³		〃, 必要に応じ計上
プレキャストコンクリート板据付工		枚		単価表(2)
ジョイント処理工		箇所		〃 (3)
裏込工		枚		必要に応じ計上
目地工		m		〃
アンカー鋼材		〃		必要量計上
注入パイプ		〃		〃
シーす		〃		〃
防錆材		kg		〃
定着加工用具		組		〃
アンカー定着具		〃		〃
特許料金		式	1	
計				

(注) 「第 II 編 第 2 章 13) アンカー工 (ロータリパーカッション式)」の単価表による。

(2) プレキャストコンクリート板据付 10 枚当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	$10 / \{N \times (1+K)\} \times 1$	
ブロック工		〃	$10 / \{N \times (1+K)\} \times 1$	
普通作業員		〃	$10 / \{N \times (1+K)\} \times 2$	
プレキャストコンクリート板		枚	10	
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	$10 / \{N \times (1+K)\}$	
諸雑費		式	1	
計 【S0250】				

(注) N: プレキャストコンクリート板 1 日当り据付枚数 (枚/日)

(3) ジョイント処理工 10 箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.7	表 7.4
普通作業員		〃	1.5	〃
連結金物		組	10	
モルタル		m ³		現場条件による
諸雑費		式	1	
計 【S0251】				

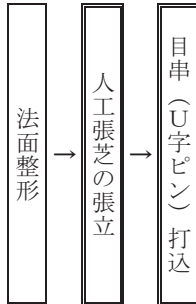
1)-8 人工張芝工

1. 適用範囲

本資料は、人工張芝（ネット又はワラ付張芝）を法面に張る場合に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
- 2. 目串の有無に関係なく適用できる。

3. 施工パッケージ

3-1 人工張芝【SPK14040032】

(1) 条件区分

人工張芝における積算条件区分はない。

積算単位は「m²」とする。

- (注) 1. 人工張芝の張付け等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
- 2. 法面整形は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.1 人工張芝 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	-	
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	芝 一重ネット	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

2) 基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工

1. 適用範囲

本資料は、無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込砕石工及び基礎・裏込栗石工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 基礎砕石

- (1) 厚さが 30cm 以下の基礎砕石の敷均し及び締固め作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-2 裏込砕石

- (1) 裏込砕石の敷均し及び締固め作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-3 基礎栗石

- (1) 厚さが 30cm 以下の基礎栗石の敷均し及び敷並べ作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-4 裏込栗石

- (1) 裏込栗石のかき込み及び築立て作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-5 採取小割

- (1) 基礎・裏込砕石及び基礎・裏込栗石において現場発生材を使用する場合

1-2 適用できない範囲

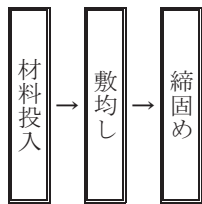
1-2-1 基礎砕石

- (1) 「第 II 編 第 2 章 共通工 5)-1 場所打擁壁工(1), 24)-1 函渠工(1), 第 IV 編 第 4 章 共同溝工 1) 共同溝工(1) (2), 第 7 章 橋梁工 19)-1 橋台・橋脚工(1)」の場合

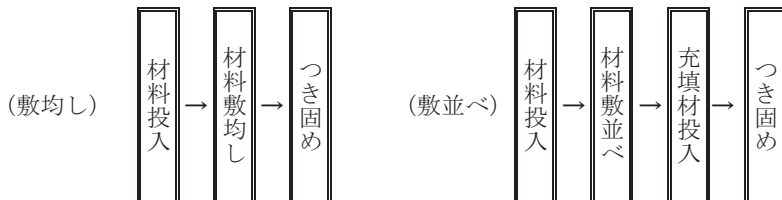
2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

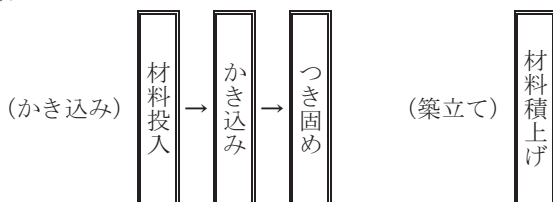
基礎・裏込砕石工



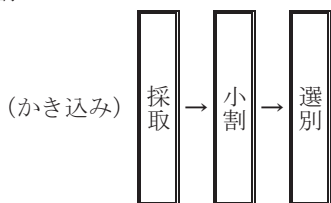
基礎栗石工



裏込栗石工



採取小割



- (注) 1. 本施工パッケージは、上記フローのすべての作業に対応している。
2. 「敷均し」とは、掘削整形された床に栗石を機械投入し、所定の厚さに敷均し、つき固め仕上げる工法をいう。
3. 「敷並べ」とは、掘削整形された床に栗石を機械投入し、人力により敷並べ、間隙充填材料を入れ、つき固め仕上げる工法をいう。
4. 「かき込み」とは、構造物と切土又は盛土との間に栗石を機械投入し、つき固め仕上げる工法をいう。
5. 「築立て」とは、構造物の裏側に栗石を積上げ盛土を行う工法又は切土面に裏型枠代りとして栗石を積上げる工法をいう。

3. 施工パッケージ

3-1 基礎砕石【SPK14040033】

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表 3.1 基礎砕石 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

砕石の厚さ	砕石の種類
2.5cm 以上 7.5cm 以下	(表 3. 2)
7.5cm 超 12.5cm 以下	
12.5cm 超 17.5cm 以下	
17.5cm 超 20.0cm 以下	
20.0cm 超 22.5cm 以下	
22.5cm 超 27.5cm 以下	
27.5cm 超 30.0cm 以下	

- (注) 1. 上表は基礎砕石工における材料の投入、敷均し、締固めおよび 20m 程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 砕石の材料使用量のロスを含む。
 3. 基礎砕石の敷均し厚は 30cm を上限とする。
 4. 現場発生材を使用する場合は、「3-5 採取小割」を別途計上する。

表 3. 2 砕石の種類

積算条件	区分
砕石の種類	クラッシュラン 40～0
	クラッシュラン 30～0
	クラッシュラン 20～0
	高炉スラグ CS～40
	高炉スラグ MS-25
	高炉スラグ HMS-25
	クラッシュラン 80～0
	再生クラッシュラン 40～0
	再生クラッシュラン 80～0
	砕石（各種）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.3 基礎砕石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊運転手	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 1. 2 号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 裏込砕石【SPK14040034】

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表 3.4 裏込砕石 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

砕石の種類	
クラッシャラン	40～0
クラッシャラン	30～0
クラッシャラン	20～0
高炉スラグ	CS～40
高炉スラグ	MS-25
高炉スラグ	HMS-25
クラッシャラン	80～0
再生クラッシャラン	40～0
再生クラッシャラン	80～0
砕石 (各種)	

- (注) 1. 上表は裏込砕石工における材料の投入、敷均し、締固めおよび 20m 程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 砕石の材料使用量のロスを含む。
 3. 現場発生材を使用する場合は、「3-5 採取小割」を別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.5 裏込砕石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	特殊運転手	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシャーラン RC-40	
	Z2	軽油 1, 2 号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 基礎栗石【SPK14040035】

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表 3.6 基礎栗石 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

栗石の厚さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙充填材料
12.5cm 超 17.5cm 以下	(表 3.7)	敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)
17.5cm 超 22.5cm 以下		敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)
22.5cm 超 27.5cm 以下		敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)
27.5cm 超 30.0cm 以下		敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)

- (注) 1. 上表は基礎栗石工における材料の投入、敷均し、敷並べ、充填材の投入、つき固めおよび 20m 程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 栗石の材料使用量のロスを含む。
 3. 基礎栗石の敷均し及び敷並べ厚は、30cm を上限とする。
 4. 護岸工の裏込栗石工において、護岸平場は本施工パッケージを適用する。
 5. 現場発生材を使用する場合は、「3-5 採取小割」を別途計上する。
 6. 間隙充填材は作業区分が「敷並べ」にのみ適用する。

表 3.7 栗石の種類

積算条件	区分
栗石の種類	栗石 (50~150mm)
	割栗石 (50~150mm)
	割栗石 (150~200mm)
	栗石 (各種)

表 3.8 間隙充填材料の種類

積算条件	区分
敷並べ間隙充填材料	クラッシュラン 40~0
	クラッシュラン 30~0
	クラッシュラン 20~0
	再生クラッシュラン 40~0
	砕石 (各種)
	栗石 (各種)
	不要

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.9 基礎栗石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊運転手	
材料	Z1	割栗石 50-150mm	
	Z2	再生クラッシュラン RC-40	敷並べ間隙充填材料がある場合
	Z3	軽油 1. 2 号 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 裏込栗石【SPK14040036】

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表 3.10 裏込栗石 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

作業区分	栗石の種類
かき込み	栗石 (50~150mm)
	割栗石 (50~150mm)
	割栗石 (150~200mm)
	栗石 (各種)
築立て	栗石 (50~150mm)
	割栗石 (50~150mm)
	割栗石 (150~200mm)
	栗石 (各種)

- (注) 1. 上表は裏込栗石工における材料の投入, かき込み, つき固め, 積上げおよび 20m 程度の現場内小運搬等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。
 2. 栗石の材料使用量のロスを含む。
 3. 現場発生材を使用する場合は, 「3-5 採取小割」を別途計上する。
 4. 護岸工の裏込栗石工において, 護岸平場は, 「3-3 基礎栗石」を適用する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.11 裏込栗石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	・ 賃料 ・ 作業区分がかき込みの場合
	K2 —	
	K3 —	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	作業区分がかき込みの場合
	R3 特殊運転手	作業区分がかき込みの場合
	R4 土木一般世話役	作業区分がかき込みの場合
材料	Z1 割栗石 50-150mm	
	Z2 軽油 1, 2 号 パトロール給油	作業区分がかき込みの場合
	Z3 —	
	Z4 —	
市場単価	S —	

3-5 採取小割【SPK14040037】

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表 3.12 採取小割 積算条件区分一覧

(積算単位 : m³)

採取小割区分	
軟岩	採取
軟岩	小割
軟岩	採取+小割
硬岩	採取
硬岩	小割
硬岩	採取+小割

(注) 上表は現場発生材を使用する場合の採取, 小割等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.13 採取小割 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1	—
	K2	—
	K3	—
労務	R1	普通作業員
	R2	—
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	—
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

3) コンクリートブロック積(張)工

3)-1 コンクリートブロック積(張)工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリートブロック積(張)に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 コンクリートブロック積

- (1) 間知ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量150kg/個以上2,600kg/個以下)の場合

1-1-2 間知ブロック張

- (1) 間知ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量770kg/個以下)の場合

1-1-3 平ブロック張

- (1) 平ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量770kg/個以下)の場合

1-1-4 連節ブロック張

- (1) 連節ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量770kg/個以下)の場合
- (2) 連結方式が鉄筋又は鋼線による場合

1-1-5 緑化ブロック積

- (1) 緑化ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量980kg/個以下)の場合

1-1-6 胴込・裏込コンクリート

- (1) コンクリートブロック積(張)工における胴込・裏込コンクリート打設の場合

1-1-7 胴込・裏込材(砕石)

- (1) コンクリートブロック積(張)工における胴込・裏込材の投入転圧の場合
- (2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-8 遮水シート張

- (1) 間知ブロック平ブロック, 連節ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量770kg/個以下)における遮水シートの設置の場合
- (2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-9 吸出し防止材(全面)設置

- (1) 間知ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量150kg/個以上2,600kg/個以下)及び平ブロック, 連節ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量770kg/個以下)における吸出し防止材の設置の場合
- (2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-10 植樹

- (1) 緑化ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量980kg/個以下)の植栽の場合

1-1-11 現場打基礎コンクリート

- (1) コンクリートブロック積(張)及び石積(張)における人力打設又はクレーン車打設の現場打基礎の場合
- (2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-12 天端コンクリート

- (1) コンクリートブロック積(張)工及び石積(張)工における天端コンクリート(打設地上高さ28m以下)の場合
- (2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 コンクリートブロック積

- (1) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配 1 割未満, ブロック質量 150kg/個未満)の場合

1-2-2 連節ブロック張

- (1) 連結金具を使用する場合

1-2-3 胴込・裏込コンクリート

- (1) 石積(張)における胴込・裏込コンクリート打設の場合

1-2-4 胴込・裏込材(碎石)

- (1) 石積(張)における碎石等の胴込・裏込材設置の場合

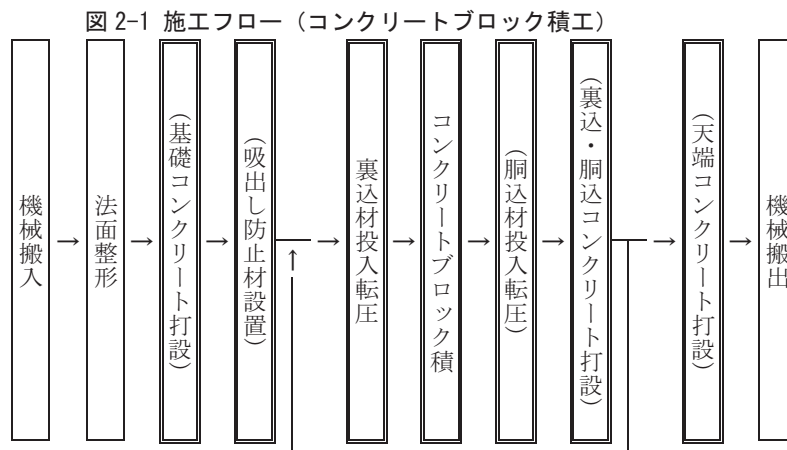
1-2-5 現場打基礎コンクリート

- (1) 練炭養生以外の特殊養生(ジェットヒーター養生)の場合

2. 施工概要

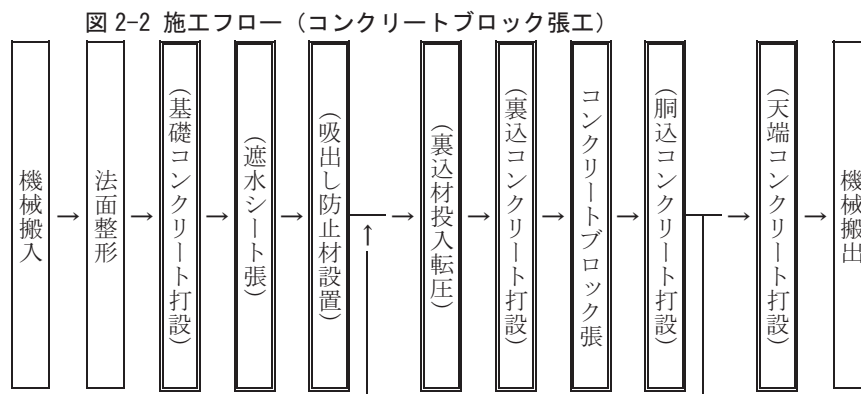
施工フローは、下記を標準とする。

2-1 コンクリートブロック積工



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
 2. また、() 書きは必要な場合計上する。
 3. 水抜きパイプ設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。
 4. 基礎コンクリート打設は、打設方法(人力、クレーン車)にかかわらず適用できる。

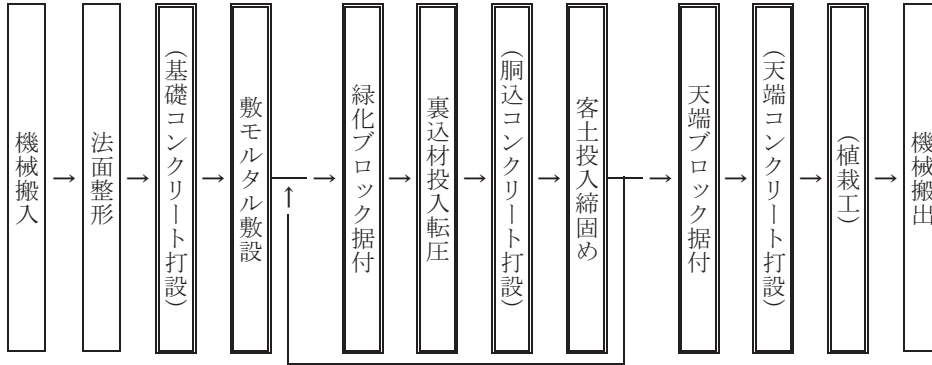
2-2 コンクリートブロック張工(間知ブロック張, 平ブロック張, 連節ブロック張)



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
 2. また、() 書きは必要な場合計上する。
 3. 間知ブロック張は、吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。
 4. 基礎コンクリート打設は、打設方法(人力、クレーン車)にかかわらず適用できる。

2-3 緑化ブロック積工

図 2-3 施工フロー (緑化ブロック積工)



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
 2. また、() 書きは必要な場合計上する。
 3. 基礎コンクリート打設は、打設方法 (人力, クレーン車) にかかわらず適用できる。
 4. 客土投入締固めの有無にかかわらず適用できる。

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートブロック積【SPK14040038】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 コンクリートブロック積 積算条件区分一覧 (積算単位 : m²)

鉄筋規格	鉄筋 10m ² 当り使用量
(表 3.2)	0.1t 以下
	0.1t を超え 0.2t 以下

(注) 1. 上表は、間知ブロック (法勾配 1 割未満・ブロック質量 150kg/個以上 2,600kg/個以下) の設置, 鉄筋 (加工・組立), 現場内小運搬の他, 水抜パイプ (水抜孔用吸出し防止材を含む), 吊上 (下) げ作業 (間知ブロック, 胴込・裏込コンクリート, 胴込・裏込材) 等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。

- 2. 鉄筋の材料ロスを含む。
 - 3. 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上する。
 - 4. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし, 小口止, 天端コンクリートは別途計上する。
- (4. 参考図参照)

表 3.2 鉄筋規格

積算条件	区分
鉄筋規格	SD295A D13
	SD295A D16
	SD345 D13
	SD345 D16~25
	鉄筋コンクリート用棒鋼 各種
	不要

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.3 コンクリートブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16	鉄筋規格「不要」の場合を除く
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 間知ブロック張【SPK14040039】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.4 間知ブロック張 積算条件区分一覧 (積算単位：m2)

間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材 10m2 当り使用量	胴込・裏込 コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート 10m2 当り使用量	遮水シートの有無
150kg 未満 控え 350 (m2) 滑面タイプ	(表 3.5)	—	(表 3.7)	—	有り
					無し
(表 3.6)					有り
		無し			
		(表 3.8)		有り	
無し					

- (注) 1. 上表は、間知ブロック (法勾配 1 割以上・ブロック質量 770kg/個以下) の設置、裏込材設置、胴込・裏込コンクリート打設、吊上 (下) げ作業 (コンクリートブロック、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材)、吸出し防止材、遮水・止水シート張、現場内小運搬 (30m 程度) 等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。
2. 裏込材、胴込・裏込コンクリート、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。
3. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯、天端コンクリートは別途計上する。
- (4. 参考図参照)
4. 目地材は必要に応じて「第 II 編 第 2 章 18) 目地・止水板設置工」により別途計上する。
5. 間知ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。

表 3.5 裏込材規格

積算条件	区分
裏込材規格	再生砕石 RC-40
	再生砕石 RC-80
	砕石 C-40
	砕石 C-80
	砕石各種
	不要

表 3.6 裏込材 10m2 当り使用量

積算条件	区分
裏込材 10m2 当り使用量	1m3 以下
	1m3 を超え 3m3 以下
	3m3 を超え 5m3 以下
	5m3 を超え 7m3 以下

表 3.7 胴込・裏込コンクリート規格

積算条件	区分
胴込・裏込コンクリート規格	18-8-25 (普通)
	18-8-40 (普通)
	18-8-25 (高炉)
	18-8-40 (高炉)
	生コンクリート各種
	不要

表 3.8 胴込・裏込コンクリート 10m² 当り使用量

積算条件	区分
胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り使用量	0.1m ³ を超え 0.5m ³ 以下
	0.5m ³ を超え 0.9m ³ 以下
	0.9m ³ を超え 1.3m ³ 以下
	1.3m ³ を超え 1.7m ³ 以下
	1.7m ³ を超え 2.1m ³ 以下
	2.1m ³ を超え 2.3m ³ 以下(標準(150kg 未満))
	2.3m ³ を超え 2.7m ³ 以下(標準(150kg 以上))
	2.7m ³ を超え 3.1m ³ 以下
	3.1m ³ を超え 3.5m ³ 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.9 間知ブロック張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 2 次基準値)]25t 吊	賃料
	K2 ー	
	K3 ー	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	
	R3 ブロック工	
	R4 土木一般世話役	
材料	Z1 間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z2 生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」の場合を除く
	Z3 再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z4 遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート有りの場合
市場単価	S ー	

3-3 平ブロック張【SPK14040040】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.10 平ブロック張 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

ブロックの 質量	平ブロック 規格	裏込材規格	裏込材 10m ² 当り使用量	遮水シートの 有無	吸出し防止材 の有無	連結金具の 有無	連結金具 10m ² 当り使用量	
150kg/個未満	平ブロック控 180(m ²)	(表 3.5)	(表 3.11)	有り	有り	有り	(表 3.12)	
						無し		
					無し	有り		
						無し		
				平ブロック控 120(m ²)	有り	有り		
						無し		
	無し				有り			
					無し			
	平ブロック各種 (m ²)				有り	有り		
						無し		
				無し	有り			
					無し			
150kg/個以上		平ブロック各種 (m ²)	(表 3.5)	(表 3.11)	有り	有り	有り	(表 3.12)
							無し	
	無し					有り		
						無し		
	平ブロック各種 (m ²)				有り	有り		
						無し		
		無し			有り			
					無し			

(注) 1. 上表は、平ブロック (法勾配 1 割以上・ブロック質量 770kg/個以下) の設置、連結金具組立、裏込材 (砕石) 投入、吊上 (下) げ作業 (コンクリートブロック、裏込材)、吸出し防止材、遮水・止水シート張、現場内小運搬の他、つき固め機械等の損料、目地モルタルを使用した場合の材料費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。

2. 裏込材、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。
 3. 目地モルタルの有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。
 4. 平ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
 5. 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上する。
 6. 設計面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
- (4. 参考図参照)

表 3.11 裏込材 10m2 当り使用量

積算条件	区分
裏込材 10m2 当り使用量	1.0m3 以下
	1.0m3 を超え 3.0m3 以下
	3.0m3 を超え 5.0m3 以下

表 3.12 連結金具 10m2 当り使用量

積算条件	区分
連結金具 10m2 当り使用量	5.0 個以下
	5.0 個を超え 15.0 個以下
	15.0 個を超え 20.0 個以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.13 平ブロック張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t 吊	賃料
	K2 ー	
	K3 ー	
労務	R1 普通作業員	
	R2 ブロック工	
	R3 土木一般世話役	
	R4 特殊作業員	
材料	Z1 平ブロック 厚さ 120mm	
	Z2 再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z3 吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8KN/m	吸出し防止材有りの場合
	Z4 遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート有りの場合
市場単価	S ー	

3-4 連節ブロック張【SPK14040041】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.14 連節ブロック張 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋 (鋼線) 規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無
設置	150kg/個未満	(表 3. 15)	有り	有り
				無し
	150kg/個以上		無し	有り
				無し
			有り	有り
				無し
撤去	150kg/個未満	-	-	-
	150kg/個以上			

- (注) 1. 上表は、連節ブロック (法勾配 1 割以上・ブロック質量 770kg/個以下) の設置、連節鉄筋 (鋼線) の加工・組立・溶接、遮水シート、吸出し防止材、材料 (コンクリートブロック、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材、間隙充填材) の吊上 (下) げ作業、現場内小運搬の他、溶接機、止水シート (基礎、隔壁、小口止の端部継手) 及び接着剤等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。
2. 連節鉄筋 (鋼線)、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。
3. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
4. 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上する。
5. 設計面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
- (4. 参考図参照)

表 3.15 連節鉄筋 (鋼線) 規格

積算条件	区分
連節鉄筋 (鋼線) 規格	亜鉛アルミメッキ鋼線 径 6mm
	亜鉛アルミメッキ鋼線 径 8mm
	SR235 径 9mm
	SR235 径 13mm
	鉄筋コンクリート用棒鋼各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.16 連節ブロック張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2 -	
	K3 -	
労務	R1 普通作業員	
	R2 ブロック工	
	R3 土木一般世話役	
	R4 特殊作業員	
材料	Z1 連節ブロック 厚さ 220mm	設置の場合
	Z2 鉄筋コンクリート用棒鋼 SR235 φ 13	設置の場合
	Z3 遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シートの有りの場合
	Z4 吸出し防止材 合織不織布 t=10mm 9.8KN/m	吸出し防止材有りの場合
市場単価	S -	

3-5 緑化ブロック積【SPK14040042】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.17 緑化ブロック積 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材 10m ² 当り使用量	胴込・裏込コンクリート 規格	胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り使用量
150kg/個未満	(表 3. 5)	(表 3. 18)	(表 3. 7)	(表 3. 19)
150kg/個以上				(表 3. 20)

- (注) 1. 上表は、緑化ブロック (法勾配 1 割未満・ブロック質量 980kg/個以下) の設置、敷モルタル、裏込材 (砕石) 投入、胴込・裏込コンクリートの吊上げ、吊下げ、天端ブロック、調整コンクリート、客土投入・締固め、現場内小運搬の他、敷モルタル・目地モルタルの材料、つき固め機械等の損料及び油脂類の費用、コンクリートバケツ、バイブレータ、電力に関する経費、型枠の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。ただし、緑化ブロック及び天端ブロックの材料費は含まない。
2. 裏込材、胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。
3. 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上することができる。
4. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
- (4. 参考図参照)
5. 緑化ブロック、天端ブロックの材料費は別途計上する。

表 3.18 裏込材 10m² 当り使用量

積算条件	区 分
裏込材 10m ² 当り使用量	2. 0m ³ 以下
	2. 0m ³ を超え 4. 0m ³ 以下
	4. 0m ³ を超え 6. 0m ³ 以下

表 3.19 胴込・裏込コンクリート 10m² 当り使用量 (150kg/個未満)

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り使用量 (150kg/個未満)	0. 7m ³ 以下
	0. 7m ³ を超え 1. 7m ³ 以下
	1. 7m ³ を超え 2. 7m ³ 以下 (標準)
	2. 7m ³ を超え 3. 7m ³ 以下
	3. 7m ³ を超え 4. 7m ³ 以下
	4. 7m ³ を超え 6. 0m ³ 以下

表 3.20 胴込・裏込コンクリート 10m² 当り使用量 (150kg/個以上)

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り使用量 (150kg/個以上)	1. 0m ³ 以下
	1. 0m ³ を超え 2. 0m ³ 以下
	2. 0m ³ を超え 3. 0m ³ 以下 (標準)
	3. 0m ³ を超え 4. 0m ³ 以下
	4. 0m ³ を超え 5. 0m ³ 以下
	5. 0m ³ を超え 6. 0m ³ 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.21 緑化ブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t吊	賃料
	K2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	裏込材規格「不要」の場合を除く
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」の場合を除く
	Z2	再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 緑化ブロック (材料費)

(1) 条件区分

緑化ブロック (材料費) における積算条件区分はない。
積算単位は「m²」とする。

3-7 天端ブロック (材料費)

(1) 条件区分

天端ブロック (材料費) における積算条件区分はない。
積算単位は「m²」とする。

3-8 胴込・裏込コンクリート【SPK14040045】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.22 胴込・裏込コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位：m3 当り)

生コンクリート規格	
(表 3.7)	

- (注) 1. 上表は、コンクリートブロック積(張)の胴込・裏込コンクリート設置、現場内小運搬の他、コンクリートバケット、パイプレータ、電力に関する経費、型枠の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。
3. 養生が必要な場合は、「第 II 編 第 4 章 1)コンクリート工」による。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.23 胴込・裏込コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」の場合を除く
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-9 胴込・裏込材(砕石)【SPK14040046】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.24 胴込・裏込材(砕石) 積算条件区分一覧 (積算単位：m3 当り)

ブロックの種類	胴込・裏込材規格
間知・平ブロック	(表 3.5)
緑化ブロック	

(注) 1. 上表は、コンクリートブロック積(張)の胴込・裏込材設置(投入・転圧)、現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 胴込・裏込材の材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.25 胴込・裏込材(砕石) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積 0.8m3(平積 0.6m3)	緑化ブロックの場合
	K2 -	
	K3 -	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	
	R3 運転手(特殊)	緑化ブロックの場合
	R4 -	
材料	Z1 再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z2 軽油 1.2号 パトロール給油	緑化ブロックの場合
	Z3 -	
	Z4 -	
市場単価	S -	

3-10 遮水シート張【SPK14040047】

(1) 条件区分

遮水シート張の積算条件区分はない。

積算単位は「m²」とする。

- (注) 1. コンクリートブロック張における遮水シートの設置、基礎・隔壁・小口止部の止水シートの設置の他、止水シート（基礎・隔壁・小口止継手）及び接着剤の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. 遮水シートの材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.26 遮水シート張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-11 吸出し防止材 (全面) 設置 【SPK14040048】

(1) 条件区分

吸出し防止材 (全面) 設置の積算条件区分はない。

積算単位は「m²」とする。

(注) 1. コンクリートブロック積・張の吸出し防止材 (全面) の設置等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料を含む) を含む。

2. 吸出し防止材の材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.27 吸出し防止材 (全面) 設置 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8KN/m	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-12 植樹 【SPK14040049】

(1) 条件区分

植樹の積算条件区分はない。

積算単位は「本」とする。

(注) 1. 樹木の植穴掘り, 植付け, 埋戻し, 養生, 現場内小運搬等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料を含む) を含む。ただし, 土壌改良に要する費用は含まない。

2. 樹高は, 50cm 以下とする。

3. 新植樹木の植栽にも適用できる。ただし, 移植及び根廻し工事にかかわるものは除く。

4. 植樹割増しの有無にかかわらず適用できる。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.28 植樹 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	造園工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	サツキツツジ樹高 30cm	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-13 現場打基礎コンクリート【SPK14040050】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.29 現場打基礎コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位：m3 当り)

生コンクリート規格	養生工の種類
18-8-25(普通)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
18-8-40(普通)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
18-8-25(高炉)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
18-8-40(高炉)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
生コンクリート各種	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし

(注) 1. 上表は、コンクリート、基礎材、目地板、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリート打設機器損料、コンクリート打設、養生等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. コンクリートの材料ロスを含む。

3. 基礎砕石の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.30 現場打基礎コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積0.8m3(平積0.6m3)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	型枠工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C60%	
	Z2	再生クラッシャーラン RC-40	
	Z3	瀝青繊維質目地板 厚 10mm	
	Z4	軽油 1.2号 バトロール給油	
市場単価	S	—	

3-14 天端コンクリート【SPK14040051】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.31 天端コンクリート 積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類
18-8-25(普通)	打設地上高さ 2m 以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ 2m 超 28m 以下 かつ 水平距離 20m 以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
18-8-40(普通)	打設地上高さ 2m 以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ 2m 超 28m 以下 かつ 水平距離 20m 以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
18-8-25(高炉)	打設地上高さ 2m 以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ 2m 超 28m 以下 かつ 水平距離 20m 以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
18-8-40(高炉)	打設地上高さ 2m 以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ 2m 超 28m 以下 かつ 水平距離 20m 以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
生コンクリート各種	打設地上高さ 2m 以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ 2m 超 28m 以下 かつ 水平距離 20m 以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし

- (注) 1. 上表は、現場打ちによる天端コンクリート設置におけるコンクリート、型枠(製作・設置・撤去)、雑機
械器具(電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリート打設機器)の損料及び電力に関する経費等、その施工に
必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 生コンクリートの材料ロスを含む。
3. 一般養生、特殊養生(練炭)以外の養生については別途計上する。
4. 目地材は必要に応じて「第 II 編 第 2 章 18) 目地・止水板設置工」により別途計上する。

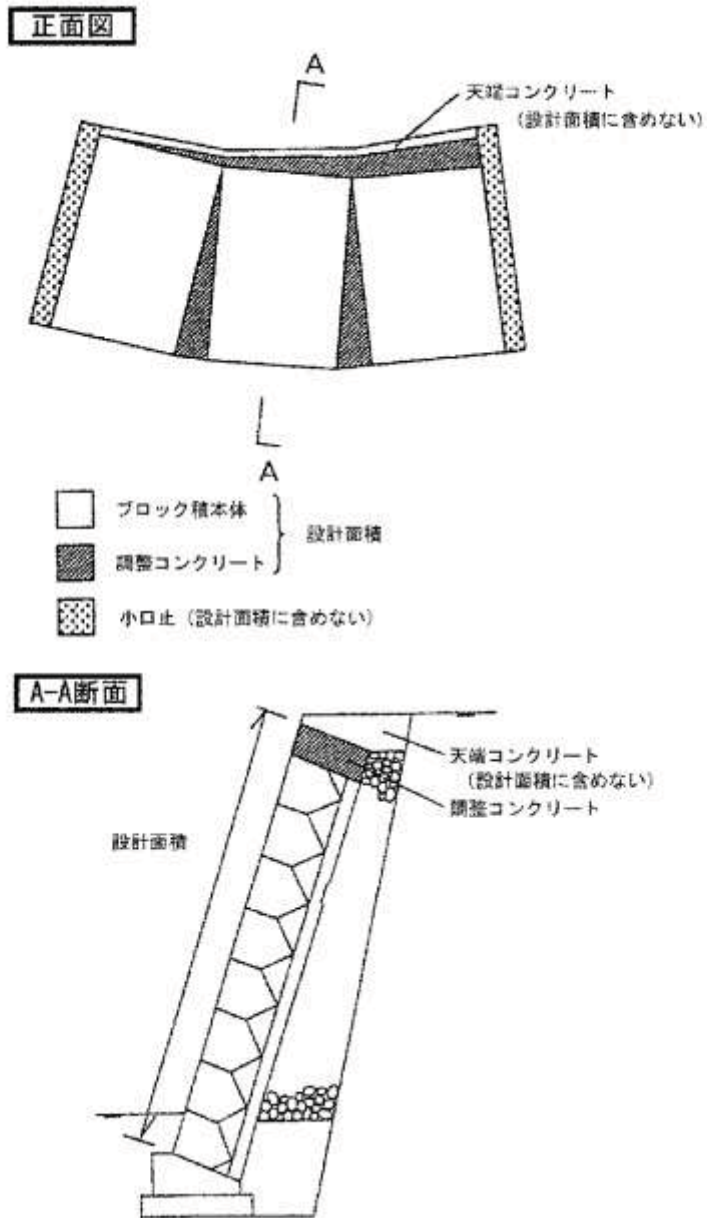
(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.32 天端コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考	
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t 吊	・打設地上高さ 2m 超 28m 以下かつ水平距離 20m 以内の場合 ・賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	型枠工	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20)W/C60%	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. コンクリートブロック積工 (調整コンクリート・小口止) 参考図



3)-2 裏込栗石投入工 (コンクリートブロック張)

1. 適用範囲

本資料は、間知ブロック及び平ブロックの張工 (勾配 1 : 1.0 以上, ブロック質量 1,800kg/個未満) の裏込工において、栗石を使用する場合に適用する。

2. 施工歩掛

2-1 施工歩掛

裏込栗石投入歩掛は、次表を標準とする。

表 2.1 裏込栗石投入工歩掛 (10m³ 当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	2.6
諸雑費	%	2

(注) 1. 諸雑費は、つき固め機械等の損料及び運転経費の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 運搬距離 20m 程度の人力による現場内小運搬を含む。

3. 裏込栗石投入工歩掛には間隙充填材の労務を含む。

4. 遮水・止水シートを施工する場合は、別途計上する。

2-2 材料使用量

(1) 裏込材使用量は、次式による。

$$\text{裏込材使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計量 (m}^3\text{)} \times (1+K) \cdots [\text{式-2.1}]$$

K : ロス率

(2) 間隙充填材使用量は、裏込材使用量の 20% とし、次式による。

$$\text{間隙充填材使用量 (m}^3\text{)} = \text{裏込材設計量 (m}^3\text{)} \times (1+K) \times 20\% \cdots [\text{式-2.2}]$$

K : ロス率

表 2.2 ロス率 (K)

ロス率 (K)	+0.14
---------	-------

3. 単価表

(1) 裏込栗石工 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	2.6	表 2.1
裏込材		m ³	11.4	式 2.1
間隙充填材		〃	2.3	式 2.2
諸雑費		式	1	表 2.1
計				